

ヨーロッパの森と森から生まれた木材クイズ

林業経営・政策研究領域 主任研究員 石崎 涼子

ヨーロッパでは、森林やそこで育った木が上手に活かされています。そんなヨーロッパの林業を通して日本の林業を考えるクイズをつくりました。子どもから大人まで、皆さん、ぜひチャレンジしてみてください。

クイズは全部で6問あります。
答えは①～③の中から1つ選んでください。
いくつ正解できるでしょうか？

第1問

樹木を伐り倒して幹を輪切りにしたものを丸太といいます。ヨーロッパで一番たくさん丸太を売っている国はどこでしょう？ ※2010年の丸太の販売額



- ③ フランス
- ② スウェーデン
- ① ドイツ

第2問

ドイツと日本、国の面積が広いのは、どちらでしょう？

- ③ 日本
- ② ドイツ
- ① だいたい同じ

※±10%以内

第3問

ドイツと日本、森林の面積が広いのは、どちらでしょう？

- ③ 日本
- ② ドイツ
- ① ほとんど同じ

※±10%以内

第4問

ドイツでは2010年に5、400万m³（東京ドーム44個分）の丸太が森から伐り出されました。

では、日本で同じ年に伐り出された丸太の量は、どのくらいでしょう？

- ③ ドイツの2倍の量
- ② ドイツとほぼ同じ量
- ① ドイツの1/3の量

第5問

ヨーロッパの森で、樹木の幹に印をつけている人を見かけました。いったい何をしているのでしょうか？



- ① 楽しい「らくがき」
- ② 熊が来ないようにする「熊よけ」
- ③ 伐り出す木を選んでいる

答え

- 第1問 ①ドイツ
ちなみに、「伐った丸太の量」で見るとスウェーデンが一番多い。
- 第2問 ③だいたい同じ
- 第3問 ①日本
日本の森林面積は、ドイツの2倍以上あります。
- 第4問 ③ドイツの1/3の量
でも、20年ちょっと前は、ほとんど同じ量でした。
- 第5問 ③伐り出す木を選んでいる
“どの木を伐るか”によって、その後の森の姿が変わってきます。ドイツやスイスなどでは、多くの場合、森林に詳しい専門家（森林官）が伐る木を選ぶ作業を担当します。
- 第6問 ③機械の正確さ
この機械で丸太の形を1本ずつ調べています。大きさや曲がりくあいによって、丸太の使い分けや値段が変わるので、とても大事な調査です。この調査をする機械の正確さが専門家によって検査され、合格した機械にはこのシールが貼られます。

いくつ正解しましたか？
下のグラフは、4月に開催された一般公開来場者の成績です。
最年少の挑戦者は4歳の男の子で3問正解、全問正解者は中学生1名と20代3名を含む6名で、若い世代の健闘が目立ちました。

★一般公開来場者の結果！ ■ 4月17日 ■ 4月18日

正解数	4月17日	4月18日
全問正解！	0	6
5問正解	16	23
4問正解	11	11
3問正解	3	2
2問正解	2	2
1問正解	2	2
正解なし	0	0

※17日は、所内研究者や農水省関係の方も多かった。

※18日は、家族連れも多かった。

※ヨーロッパの林業、木材産業について更に御興味のあられる方は、岡・石崎編『森林経営をめぐる組織イノベーション—諸外国の動きと日本—』広報プレイス、2015年を御覧ください。



丸太は、大きな機械へ運び入れられました。



丸太を載せたトラックが工場につくと、



丸太が最初に通る機械を動かしているのがこの人。



大きくすると、



第6問

さて、このシールは何を表すものでしょうか？

- ① 機械の大きさ
- ② 機械の重さ
- ③ 機械の正確さ